

平成29年度 大田区立徳持小学校 自己評価 報告書

○本校の概要

| |
|--|
| 【学校規模】◎学級数：20学級 ◎児童数：605名（5月1日現在） ◎教員数：27名 ◎所在地：大田区池上7-18-1 |
| 【学校の特色】 |
| ◎児童は明るく素直な児童が多い。挨拶などの基本的な生活習慣は低学年を中心に身に付けている。学力は、約8割の児童が基本的事項は理解できているが、二極化が進んでいる。 |
| ◎野球、ソフトボール、サッカー、卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボールの6団体がTSA（徳持スポーツアソシエーション）という組織を構成し、児童の健全育成にあ |
| たっている。 |
| ◎体力向上を目指して、全校でのマラソン大会を実施し、保護者・地域・町会と連携して取り組んでいる。4～6年生は、学校周辺に周回コースを設定して、マラソン大会を行っている。 |
| ◎PTAと連携して、毎朝集団登校を実施し8時10分には全校児童が登校完了をしている。また、朝遊びの時間を十分確保することで、生活リズムの形成と体力向上に取り組んでいる。 |

○自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 目標に対する成果指標 | 成果評価 | これまでの取組及び今後の改善策 | 学校関係者記入欄 コメント |
|-------------|--|---|--|------|---|-------------------------|
| 学力向上 | 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 | 4:授業に関するアンケートにおいて、「課題をもって授業に取り組み、解決することができた。」と回答した児童の割合が85%以上。 | 4 | 【取り組み】 ○算数科を中心に課題解決学習に取り組んだ。 ○学力の二極化に伴い、下位層児童の基礎基本の徹底を全校の共通課題として取り組んだ。 ○児童アンケート調査では91%の児童が「めあてをもって学習することができた」と答えている。 【今後の改善策】 ○学力の二極化に伴い、下位層児童の学習を中心に、家庭学習の充実のために、「学習カウンセリング」をよりきめ細かにいき、学習習慣がより身に付くよう取り組んでいく。 ○新学習指導要領の全面実施に伴い、「する子 みる子 支える子 知る子」の育成を目指す授業を全校で取り組む。 | ※特記事項なし |
| | | 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 | 3:授業に関するアンケートにおいて、「課題をもって授業に取り組み、解決することができた。」と回答した児童の割合が75%以上。 | | | |
| | | 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 | 2:授業に関するアンケートにおいて、「課題をもって授業に取り組み、解決することができた。」と回答した児童の割合が65%以上。 | | | |
| | | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。 | 1:授業に関するアンケートにおいて、「課題をもって授業に取り組み、解決することができた。」と回答した児童の割合が65%未満。 | | | |
| | | 授業改善推進プランを、授業に生かす。 | 計画的に問題解決学習(アクティブラーニング)を展開し、課題をもって学習に取り組み、解決することができるように支援する。 | | | |
| 豊かな心を育む | 子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。 | 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 | 4:学校生活に関するアンケートにおいて「ルールを守って学校生活を送ることができた。」と回答した児童の割合が85%以上。 | 4 | 【取り組み】 ○年3回の「いじめアンケート調査」を基に、いじめの早期発見、未然防止に取り組むことができた。また「いじめ防止対策推進法」を策定し、組織的に取り組んだ。その結果、児童が「いじめはいけないこと」と認識するようになってきた。 ○児童アンケート調査で「きまりをまもって生活することができた」の項目で93%の児童が良くてきたと答えていた。 【今後の改善策】 ○全校で朝のあいさつ運動をより充実させ、日常の挨拶の励行を図る。 ○各調査結果から、よりきめ細かに一人ひとりの児童の状況を把握し不登校0を目指す。 ○「徳持小いじめ0 スローガン」を実施し、全校で取り組み、「いじめ0」を目指す。 | ※特記事項なし |
| | | 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 | 3:学校生活に関するアンケートにおいて「ルールを守って学校生活を送ることができた。」と回答した児童の割合が75%以上。 | | | |
| | | 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 | 2:学校生活に関するアンケートにおいて「ルールを守って学校生活を送ることができた。」と回答した児童の割合が65%以上。 | | | |
| | | 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 | 1:学校生活に関するアンケートにおいて「ルールを守って学校生活を送ることができた。」と回答した児童の割合が65%未満。 | | | |
| | | 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 | 道徳や学級活動を通じて、「ルールを守って」「優しい心」で学校生活が過ごせるように意図的に指導する。 | | | |
| 体力向上 | 子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。 | 新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。 | 4:体育の学習や体育朝会・休み時間において、児童の自己評価により、努力した児童が85%以上。 | 4 | 【取り組み】 ○一校一取組としてマラソン(持久走)全校で取り組んだ。また4年生以上は校内マラソン大会を実施し、体力向上に取り組んだ。その結果、小学生駅伝大会において、好記録で1位に輝くことができた。 ○大田区教育研究推進校2年次として、体育学習の改善に努めることができた。 【今後の改善策】 ○児童の体力について、体力テストを元に、「元氣アップカード」を活用し、児童が自ら体力向上に挑戦できるように取り組ませる。 ○大田区教育研究推進校の実践を、今後も日常の体育学習にいかしていく。 | ※駅伝大会、校内マラソン大会の取組が良い。 |
| | | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 | 3:体育の学習や体育朝会・休み時間において、児童の自己評価により努力した児童が75%以上。 | | | |
| | | 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 | 2:体育の学習や体育朝会・休み時間において、児童の自己評価により努力した児童が65%以上。 | | | |
| | | 大田区教育研究推進校の取組を通して、体育授業・体育的行事・休み時間など様々な機会を活用して、運動習慣の確立を推進する。 | 1:体育の時間や体育朝会・休み時間において、児童の自己評価により努力した児童が65%未満。 | | | |
| | | 「1校1取組」である持久走(マラソン)の取組を通して、児童の体力が向上するように指導する。 | | | | |
| 教育環境向上 | 教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。 | 授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 | 4:保護者による学校生活アンケートにおいて、授業に対する肯定的な意見が90%以上。 | 4 | 【取り組み】 ○初任者～6年次までの教員を中心にOJTを活かして、若手研修会を実施した。2校目の教員も参加し、授業公開を通して、学習指導力の育成に取り組んだ。 ○保護者アンケートでは「よりよい授業づくりに取り組んでいる」項目で91%が良くてきていると答えている。 【今後の改善策】 ○電子黒板・書画カメラ・タブレットを授業で有効活用ができるよう取り組んでいく。 | ※特記事項なし |
| | | 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 | 3:保護者による学校生活アンケートにおいて、授業に対する肯定的な意見が80%以上。 | | | |
| | | 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 | 2:保護者による学校生活アンケートにおいて、授業に対する肯定的な意見が60%以上。 | | | |
| | | 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 | 1:保護者による学校生活アンケートにおいて、授業に対する肯定的な意見が60%未満。 | | | |
| | | 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 | 校内の授業研究会と初任者・中堅教員の授業研究会の研究内容や成果を自らの授業力向上に活かす。 | | | |
| 家庭・地域の教育力向上 | 学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 | 4:保護者による学校生活アンケートにおいて、「学年×10分」の家庭学習達成率が85%以上。 | 4 | 【取り組み】 ○「徳持小学校学習のすすめ(スタンダード)」で、学年×10分の家庭学習に取り組んだ。保護者アンケートでは、90%が良くてきていると評価していた。 ○算数ステップ学習や東京ベーシックドリルを活用して、家庭学習に取り組んだ。 【今後の改善策】 ○児童の学習がより深まるように、地域力を活かした授業展開ができるよう取り組んでいく。地域の人材活用をより有効にしていこう。 | ※徳持スタンダードの取組を今後も実践してほしい |
| | | 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 | 3:保護者による学校生活アンケートにおいて、「学年×10分」の家庭学習達成率が75%以上。 | | | |
| | | 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 | 2:保護者による学校生活アンケートにおいて、「学年×10分」の家庭学習達成率が65%以上。 | | | |
| | | 学習する習慣が身に付くように、各家庭が「学年×10分」の家庭学習に取り組むように働きかける。 | 1:保護者による学校生活アンケートにおいて、「学年×10分」の家庭学習達成率が65%未満。 | | | |
| | | | | | | |